しんぶん赤旗
日曜版
2008年3月16日
日刊通巻第20585号　1952年5月30日第3種郵便物認可

五輪マラソン女子代表 増田明美さんが語る 3選手の魅力 3

自・民改憲同盟が新体制 4
トヨタのQC活動は労働時間 厚労省が初の認定 5
これでいいのか日本の銀行 作家 黒木亮さん 衆院議員 佐々木憲昭さん 10 11
だれでもできる 整理収納入門 17
イラク戦争5年 死者100万 難民500万 18 19

（ロイター）
鉄子本ラッシュ 女性鉄道ファン 29
石原銀行35 元幹部語る

香里奈さんスポット 31

食べたい国産作りたい

産地偽装にギョーザ中毒事件…。「安全・安心を食べたい」はみんなの願いです。そこに立ちはだかる食料自給率39％の壁。いま日本農業の再生は生産者、消費者双方の願いです。日本共産党はそのためのプランを発表（7日）しました。

三重県北部の菰野町（人口4万人）。乾いた田んぼに広がる青々とした葉は小麦です。地元、JA三重四日市の元専務理事、諸岡正人さん（73）＝写真＝が語ります。

「大きい農家も小さい農家も協力し合って田んぼを維持してきた。なのに政府は〝小さい農家はいらん〟と。これでは農村は崩れるわな。いったん耕作放棄地になれば簡単に農地にもどらない」

1俵（60キログラム）約2万円（95年）だった米価は、昨年1万3千円台に。生産費（三重県では1万7千円）を大きく割り込みました。政府が価格保障を廃止し、米価を市場任せにしたためです。

「農民の意欲をそいで農業ができないようにされている。世界の食料も不安定。こんな食料自給率でいいわけない」

米だけではありません。規模にかかわらず小麦や大豆の収入は助成金とあわせ1俵8千―1万円だったのに、07年度から4ヘクタール以下の農家は助成の対象外に。「いまは1俵2千円台。農家ごろしや」と語る男性（75）は作付けをやめました。

諸岡さんは日本共産党の「農業再生プラン」を党町議から受け取り、蛍光ペンを手に読みました。「〝食料自給率の向上を真剣にめざし、国が責任を持つ〟というところが気持ちにぴったりくる」と語ります。

◇

新日本婦人の会の横浜・港北支部さつき班。千葉県多古町旬の味産直センターの野菜ボックスを利用するお母さんたちです。

「離乳食には、作った人の顔がわかる産直野菜を使います」。吉野裕さん（29）の腕の中で、娘の愛葉（めいは）ちゃん（9カ月）は、ゆでてつぶしたジャガイモとニンジンをほおばります。

前島恵子さん（43）も、産地のわかる食べ物で10歳と13歳の二人の子育てをしています。「大根の葉っぱもネギの青い部分も、新鮮でおいしい。私たちがそういう野菜を選ぶことが、安全な野菜づくりを目指す生産者を支えたり、自給率アップや日本の農地を守ることにつながるといいな」と話します。

30年前から食の安全にこだわってきた前島さんの母親、千島洋子さん（71）も「自給率39％が問題になっているけどどうやって上げるのか。それが知りたい」。

6面につづく

「多古町の野菜は千葉の太陽の味がする」と野菜ボックスを囲む（左から）千島さん、前島さん、吉野さん親子、三宅さん＝横浜市内

共産党 農業再生プラン発表

7面

「将来も安心しておいしい野菜をつくり続けたい」。千葉県の「多古町旬の味産直センター」の野菜ボックスにミニトマトを出荷している角﨑康滋さん、真琴さん親子

発行所●〒151-8586 東京都渋谷区千駄ケ谷4の26の7 ☎03(3403)6111
郵便振替口座00180-6-194897 ©日本共産党中央委員会 2008年
日本共産党中央委員会
定価（税込み）●日曜版1カ月800円（郵送は別途送料234円）1部200円
●日刊1カ月2900円（郵送は別途送料1380円）1部100円